

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8354
担当部課名	保健福祉部	高齢者福祉	課	高齢者福祉 係
事務事業名	家族介護者交流事業		事業コード	11210

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第2節	いきいきとした高齢社会の創造	12
施策名	第1施策	地域ケアサービスの充実	年度

2 実施根拠及び関連法令等

家族介護支援特別事業実施要綱 (H12.5.1 厚生労働省老健局長通知)
介護予防・生活支援事業の実施について (H13.5.25 厚生労働省老健局長通知)

3 事業概要

(1) 事業の目的 高齢者を介護している家族等の身体的、精神的、経済的負担の軽減を図り、要介護高齢者の在宅生活の継続、向上を図る。 家族介護者に対し、介護から一時的に解放し、宿泊・日帰り旅行、施設見学等を活用した介護者相互の交流会を実施し心身の元気回復を図るもの。	(2) 対象(誰、何) 要介護高齢者を在宅で介護している家族 (参考) H14要介護認定者数は7,196人 対象数 上記対象者の実態数は不明
(3) 平成13年度事業の内容 平成13年度家族介護者交流事業(リフレッシュの旅) ・実施日 平成13年11月8日(木)~9日(金)(1泊2日) ・参加者 22人(募集人員90人) ・内容 施設見学、交流会 ・行き先 箱根・湯河原方面 ・参加費 2,000円	(4) 総合計画・実施計画における概要 なし  (5) 個別計画の概要 計画名 計画年次 年度~ 年度 なし

4 評価指標

指標名	参加率(募集人員に対する実参加者数の割合)	参加者アンケートによる事業好感度
指標式	実参加者数/募集人員×100	「参加してよかった」と回答した方の数/全回答数×100
指標設定の意図	事業の認知度等	参加者の反応と効果

5 目標と実績

[金額単位:千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標		33.3	a 24.4	b 100	100
指標		96.6	c 95.5	d 100	100
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	832	773	2,250	1,300
	人員・時間数	(60h)	(60h)	(60h)	(60h)
	人件費	250	250	250	250
	その他経費				
合計	0	1,082	1,023	2,500	1,550
特定財源		624	412	1,687	937

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 60.0%
C ▼	B:一部達成していない(100%> 80%)	
	C:達成していない (80%> )	
a	24.4	$\frac{c}{d} \times 100 = 95.5\%$
b	100.0	$\frac{e}{f} \times 100 =$
理由:	対象者は非常に多いはずであるが、未だ事業認知度が低いこと、背景として要介護高齢者をショートステイ等に預け、または家に残し、旅行に出かけることに対する心情的な抵抗感があるように思われる。また、費用負担で考えると、参加費自体は低廉であるが、これに伴い必要となるショートステイの費用は無視できないものがある。	
(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価	A:適応している	理由: 高齢者の在宅介護を継続するためには、介護する家族の身体的・精神的負担を少しでも軽減する事業が必要である。特に精神的負担を軽くするには、同じ悩みを持つ者同士が交流し、励ましあうことが非常に有効と考える。
A ▼	B:一部適応していない	
	C:適応していない	
(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価	A:妥当である	理由: 1人あたりの助成額等は、国の要綱に定められたとおり行っている。(年額1人あたり25千円以下・一定の自己負担を求めること)
A ▼	B:一部妥当でない	
	C:妥当でない	
(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適切か		
評価	A:代替の可能性ない	理由: 国要綱で、事業主体は市町村と位置付けられているが、市社協等に委託実施することは可能である。ただし、委託には、旅行実施の費用のほか事務費の上乗せが必要である。
B ▼	B:代替の可能性低い	
	C:代替の可能性高い	
(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価	A:満足できる	理由: アンケートによると参加者のほぼ全員が参加してよかったという感想を持ち、大多数が継続実施を希望している。
A ▼	B:一部満足できない	
	C:満足できない	
(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価	A:有効である	理由: (2)のとおり有効と考える。
A ▼	B:一部有効である	
	C:有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> <p>H14年度の実施結果をみた上で、参加しやすさを考慮し、日帰り旅行等も検討する。</p>
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> <p>上記(4)で記載したとおり、委託実施も可能である。</p>

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	平塚市:本市と同様の一泊旅行(年1回)実施(利用者負担:5千円)
			三浦市:本市と同様の一泊旅行及び昼食会を年1回実施(利用者負担:3千円、500円)
			厚木市:ねたきり高齢者家族を対象に「慰安激励会」年1回実施(利用者負担なし)
			大和市:5在支に委託し「家族交流会」を年1回実施(利用者負担なし)
今後の進め方		説明	逗子市:本市と同様の対象者で日帰りバス旅行を年2回実施(利用者負担:2千円)
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		当該事業は、一義的には参加者相互の交流を目的としているが、それ以外にも介護者のレスパイト的側面を持っている。このため日常生活から離れリラックスした時間のなかで交流が持てるよう一泊旅行という形態で実施し効果を得ている。参加者が少ないのは、初めて間もない事業であり、市民(介護者)の認知度が低いためと思われる。今後、PR方法を改善し継続するなかで、参加者も増加するものと考えられる。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--